

# SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE ACTIVITY DIGEST 2014

## 活動実績ダイジェスト



### Contents

滋賀医科大学のこの1年 .....	01
SUMSプロジェクト .....	02
教 育 .....	03
研 究 .....	05
診 療 .....	07
国際交流 .....	09
社会貢献 .....	11
財務状況 .....	12
機能強化に向けた取り組み .....	13
業務運営・改善 .....	14



国立大学法人

滋賀医科大学

SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE

# 滋賀医科大学のこの1年

2014年4月

- ・新役員 就任式
- ・入学宣誓式、大学院入学宣誓式

5月

- ・浜松医科大学との交流会
- ・解剖体納骨慰霊法要
- ・病院機能評価(公益財団法人日本医療機能評価機構)認定(更新)

6月

- ・ヘリポート完成記念式典
- ・公益財団法人滋賀県産業支援プラザと協力推進に係る協定を締結
- ・滋賀医科大学奨学金授与式
- ・関連病院長会議

7月

- ・オープンキャンパス(医学科)
- ・オープンキャンパス(看護学科)
- ・オープンキャンパス(博士課程教育リーディングプログラム)
- ・報道機関との懇談会
- ・大津市と救急事故等現場への職員派遣に関する協定を締結

8月

- ・学外有識者会議
- ・井水浄化供給施設運用開始

9月

- ・地震防災訓練
- ・メディカルスタッフ研修&発表会
- ・男女共同参画推進のための県民参加シンポジウム

10月

- ・医学科第2年次後期学士編入学並びに秋季大学院医学系研究科博士課程・修士課程入学宣誓式
- ・学位授与式
- ・女性研究者賞授与式
- ・開学40周年記念講演会・記念式典・記念祝典
- ・バイオ・ジャパン2014ワールド・ビジネス・フォーラムに出展
- ・解剖体慰霊式
- ・若鮎祭(学園祭)
- ・滋賀県警察と連携協力に関する基本的協定を締結
- ・研究動物慰霊式

11月

- ・マレーシア国民大学医学部看護学科長ホー・シウ・エン先生を招聘
- ・第18回分子神経科学研究センター国際シンポジウム開催

12月

- ・留学生等バス研修旅行
- ・全学フォーラム
- ・事務職員、技術職員研修・業務成果発表会
- ・インドネシア国立脳センター病院と学術交流協定を締結

2015年1月

- ・ハラスメント防止に関する研修会
- ・分子神経科学研究センター認知症研究分野開設記念シンポジウム

2月

- ・大原薬品工業株式会社と研究医養成の「奨学金」創設のための協定締結
- ・バングラデシュ国立心臓財団病院と学術交流協定を締結
- ・大学を支える人材を育むための研修
- ・近畿地方DMATブロック訓練に新車両で参加
- ・開学40周年記念 滋賀医科大学シンポジウムを開催

3月

- ・学外有識者会議
- ・学位授与式、卒業式
- ・次世代認定マーク「くるみん」を取得
- ・スチューデント・ドクター認定式



# 「次世代を担う人材育成と医療科学・技術の創出」

法人化第二期(2010～2015)の目標をSUMS project 2010-2015「次世代を担う人材育成と医療科学・技術の創出」にまとめました。これは第一期にえられた成果を生かし、さらに充実発展に向けたものであります。

## 1

### 地域基盤型教育・研修 (Society-based Education)

地域基盤型教育を推進し、医療福祉の分野で活躍する人材を育成する。

- ① 早期体験実習、患者宅訪問授業、模擬患者の会や里親との交流の充実、医学科定員増に対応した設備や学習環境の整備
- ② Science, Arts, Ethics を軸としたカリキュラム編成  
基本的知識と最新医学の知見、スキルズラボの活用  
医療水準IIの確保と臨床実習の評価基準、継続的な倫理教育
- ③ 医師・看護師国家試験合格率、各々95%以上、98%以上の達成
- ④ 任期付教職員の導入による業務の活性化
- ⑤ 優秀教員の表彰、優秀学生の奨学金給付、学生支援の拡充
- ⑥ 魅力ある研修プログラムによる総合医、専門医、地域医療支援医師の養成
- ⑦ メディカルスタッフの教育プログラムの推進

## 2

### 独創的研究 (Unique Research)

基礎医学と臨床医学との融合による新領域の研究を展開する。

- ① 重点研究と独創的各個研究の推進
- ② 研究グループの組織化による研究の強化
- ③ 大学院学生数100%確保、留学生の在学生数の増加
- ④ 教職員海外研修や留学生等の支援による国際交流の促進
- ⑤ 産学連携の推進

## 3

### 充実した医療 (Mindful Medical Service)

先進医療と高度医療を推進し、地域医療に貢献する。

- ① 先進医療と高度医療の推進
- ② オーダーメイド医療の開発
- ③ 再生医療への取組
- ④ 低侵襲医療
- ⑤ 地域における不可欠な医療分野の強化

## 4

### 戦略的組織活性化 (Strategic, activated Service)

組織の活性化で大学の機能を向上する。

- ① 教職員のキャリアアップ支援体制
- ② 業務の省力化、効率化にむけたボトムアップ体制の強化
- ③ 積極的な情報公開
- ④ 男女共同参画社会の実現に向けた具体的取組
- ⑤ エコプロジェクトの推進
- ⑥ 収支バランスの改善によるソフト面の強化

## 高い国家試験合格率を維持するための取り組み

共用試験(CBT)、模擬試験や卒業試験の結果を分析し、個々の学生に合わせた支援を継続的に実施していきます。

**医師合格率 (本学目標 95%)**

93.2%(全国平均 91.2%)

**看護師合格率 (本学目標 98%)**

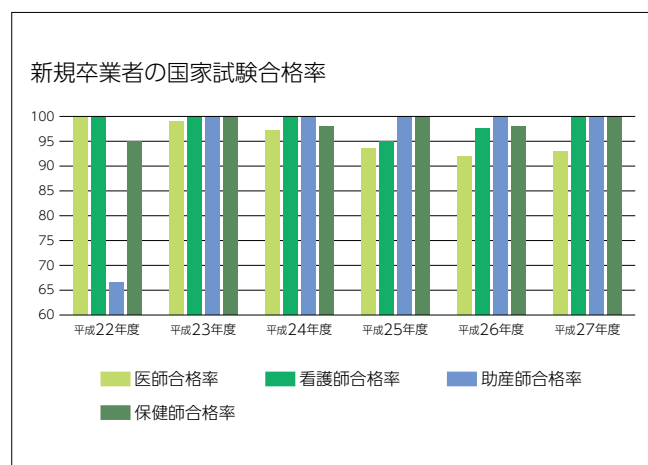
100.0%(全国平均 90.0%)

**助産師合格率**

100.0%(全国平均 99.9%)

**保健師合格率**

100.0%(全国平均 99.4%)



### 医学科

- マンツーマン方式のきめ細かい指導
- クラス担任による個別面談
- 不得意な分野の補講の実施
- 学習室の確保 など

### 看護学科

- 工夫されたカリキュラムと十分な教育指導
- 既卒者を含んだ教育支援体制 など

## 臨床教育講座の開設

臨床教育講座の開設を決定し、国際基準に対応した医学教育認証制度への対応及び卒前・卒後のシームレスな教育研修制度の構築に着手しました。

専任教授は、厚生労働省臨床研修審査専門官の経歴を有しており、平成27年4月1日に着任しました。

## スキルズラボ棟完成

スキルズラボ棟が完成しました。シミュレータを機能的に配置することにより、実践的な医療・看護技術が効率よく修得できるように工夫しました。学部では臨床実習入門、客観的臨床能力試験(OSCE)等に活用しました。



スキルズラボ棟の外観



スキルズラボ棟内



医学科 OSCE 前実習の様子

## 産学協働支援による学生主体の研究医養成

基礎研究医養成事業における大学院プランの複数のプランのうちPhD-MDコースに対する支援のお申し出があり、平成27年2月に、大原薬品工業株式会社(滋賀県甲賀市)からの研究医養成を目



塩田学長(左)と大原社長(右)

的とした「奨学金」創設のための協定を締結しました。

研究医登録コースの学生は、国際誌の論文の共著者や国際学会(米国)や国内学会で筆頭著者として発表を行うなどの、実績を挙げています。

11月と12月に2名の外部評価委員による評価を受け、登録コースの学生によるポスター発表が高く評価されました。



## 大学院教育の改革

### 01

大学院医学系研究科博士課程を医学専攻の1専攻に改組し、学生の受け入れを開始しました。これに伴い大学院のアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを見直し、策定しました。

#### 医学専攻

- ・先端医学研究者コース
- ・高度医療人コース
- ・学際的医療人コース

### 03

博士課程教育リーディングプログラム「アジア非感染性疾患(NCD)超克プロジェクト」において、カリキュラムポリシーとディプロマポリシーに基づく授業科目を設定し、秋入試及び春入試を実施しました。

協定校特別選抜枠を設け、平成26年度インドネシア、ベトナム、ケニアの協定校からの博士課程学生が入学しました。



オープンキャンパスの様子

### 02

文部科学省グローバルアントレプレナー事業に、「医・工・デザイン連携グローバルアントレプレナー育成プログラム(iKODEプログラム)」が採択され、学際的医療人コースを中心とする博士課程教育にiKODEプログラムを取り入れるとともに、学内外からの登録者を受け入れて開講しました。

#### iKODE※プログラムとは

本学が、しが医工連携ものづくりネットワークと連携してきた実績を活かし、イノベーションにつながるデザイン思考と、薬事規制の理解をサポートするプログラムです。

カリキュラムは、講義・ワークショップ・インターンシップ・海外研修など、様々な知識を身につけながら、ビジネスの現場で、医療の未来を担うアントレプレナー(起業家)の育成をサポートします。

特に、未来の医療につながるデザイン思考を取り入れることで、革新的なもののづくりやサービスの創出を実現していきます。

※「iKODE」… i(医学)KO(工学)DE(デザイン)という言葉を組み合わせて、「高みに行こう(ぜ)」という想いが込められています。





## 重点プロジェクトの推進

本学の特徴を生かした5つの研究を「重点プロジェクト」として推進しています。

### 平成26年度の主な研究成果

#### サルを用いた研究

遺伝子組換えカニクイザル作出のための基盤技術(レンチウイルスベクターの構築・ウイルス粒子の調製・受精卵への感染・仮親への移植)を概ね確立し、全て本学で行えるシステムを構築しました。



カニクイザル 800 頭を飼育管理しています

#### 神経難病研究

脳内アミロイドβの産生を阻害しアルツハイマー病の発症を抑制するタンパク質ILEIを発見しNature Communications 2014に発表しました。さらに、ILEIに基づいた治療法や診断法の開発に向け、トランスレーショナル研究に着手しました。また、アルツハイマー病の鼻分泌液サンプルによる診断法の臨床研究を実施しています。これらの成果に対して21件の報道がありました。

また、アルツハイマー病MR画像診断薬Shiga-Y5の国内および米国特許が成立しました。

認知症研究分野開設記念シンポジウム「アルツハイマー病研究の最前線と認知症医療の将来像」を開催し、臨床医、基礎研究者、大学院生など50名の参加がありました。

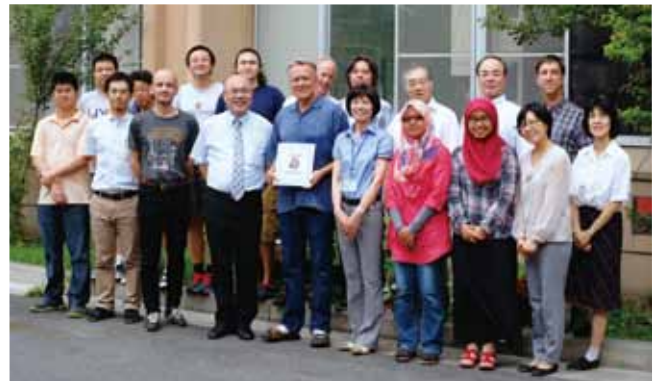


アルツハイマー病 MR 画像診断薬 Shiga-Y5 の米国特許



シンポジウムの様子

平成26年度1月から6月まで、姉妹校であるカナダのプリティッシュコロンビア大学医学部精神科 Steven R Vincent教授を特任教授として招聘し、大学院生とともにアルツハイマー病に関する共同研究を行いました。その研究の成果をJournal of Alzheimer's disease誌に発表しました。



Vincent教授(中央)を囲むスタッフ

#### 生活習慣病医学

わが国の代表集団を対象とした疫学研究NIPPON DATA (厚生労働省指定研究)と滋賀動脈硬化疫学研究SESSAを継続しました。また、不整脈の遺伝子検索、糖尿病患者の心・腎イベント発症予測マーカー、内臓脂肪型肥満関連新規遺伝子などについての研究を行い、成果はHypertension誌他多数の国際誌に発表しました。

また、NIPPON DATA研究の成果がテレビ等で全国報道されました。

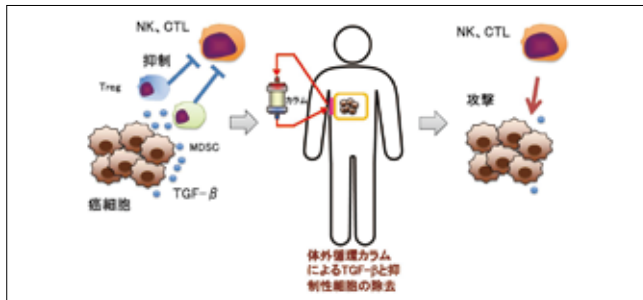


JICA国際協力機構研修「保健衛生管理」を開催しました

## 総合がん医療推進研究

がんワクチン療法の個別化医療に向けて免疫ゲノミクスに基づいたバイオマーカー探索法の開発に成功し、その成果をOncoimmunology 2015に発表しました。またLAP陽性細胞除去カラムの開発を行い、抗癌剤とLAP陽性細胞除去カラムの併用で生存日数(ラット)が延長することを明らかにしました。更にLAP陽性細胞除去カラムの安全性をカニクイザルで確認しました。

〈イメージ図〉



## バイオメディカル・イノベーションセンター

マイクロ波新規手術支援デバイス:携帯可能な小型・省力型マイクロ波手術機器として、経済産業省「課題解決型医療機器開発プロジェクト」の支援により開発を進め、これまでにない肩掛け型の携帯型止血器が完成しました。この事業は、福島県における「救急・災害対応医療機器開発事業」として採択・継続されています。

また、「復興促進事業プロジェクト」によりマイクロ波実質臓器凝固切断器の開発を行っており、こちらも上記事業に統合され、継続しています。

さらに福島県のプロジェクトとしてマイクロ波発信機を超小型化し内蔵するデバイス開発を目的とした「革新的医療機器開発実証事業」にも採択されています。

MR画像下の次世代手術システム開発:1月に動物実験用としては世界でも数少ない3テスラMR装置を設置稼働しました。3月にはハーバード大学、東京女子医科大学・早稲田大学、九州大学の世界でトップを走るMRの治療開発施設の研究者が滋賀に集まりMR画像下の医療についてのシンポジウムを開きました。



携帯型マイクロ波手術支援機器



3テスラ動物用MR装置

## 優秀研究者の表彰

研究活動の支援・点検・評価を目的とする研究活動推進室では、毎年、学内の研究について成果を評価し、優秀研究者を選定して表彰を行っています。

### 平成26年度 優秀研究者

内科学講座 外国人客員研究員(元特任助教)呉 捷(Wu Jie)

交換神経の興奮により心筋の活動電位持続時間が延長し、その結果、著しいQT延長や致命的な不整脈を起こす特殊なQT延長症候群の遺伝子検査データから、そのメカニズムを電気生理的に解明したことが、学術的意義の高い研究業績として評価されました。



## イノベーション機能を強化

### 公益財団法人滋賀県産業支援プラザと協力推進に係る協定を締結

滋賀県産業支援プラザとは、これまで高度先進医療を実現する診断・治療技術の開発プロジェクトの推進や、本学と立命館大学との医と工の研究資源と医療福祉分野における新事業創出を目指す中小企業の技術力を活かすための研究開発を進めるなど地域社会の発展に貢献してきましたが、更にその関係を深め、研究成果等のシーズを地域産業へ活用し、地域社会の産学官連携活動に資する人材育成等を行なうため、協力推進に係る協定を締結しました。



塩田学長(左)と田口理事長(右)



意見交換の様子



## 低侵襲医療の実践

### ロボット支援手術

平成25年3月、内視鏡手術支援ロボット「ダ・ヴィンチSi」を導入しました。ロボット支援手術は、医師が3D画像を見ながらロボットを遠隔操作することにより安全で正確な手術を行うことができ、泌尿器科で前立腺全摘出術等を開始し、その後、消化器外科、呼吸器外科、女性診療科でも行っており、平成26年度は58件の手術を実施しました。

- ①腹腔鏡下前立腺全摘術：42件  
(保険適用で実施)
- ②腹腔鏡下腎部分切除術：5件  
(臨床研究3件、自由診療2件で実施)
- ③腹腔鏡下膀胱全摘除術：2件  
(臨床研究で実施)
- ④腹腔鏡下腎盂形成術：3件  
(臨床研究で実施)
- ⑤腹腔鏡下直腸低位前方切除術：2件  
(臨床研究で実施)
- ⑥胸腔鏡下縦隔腫瘍摘出術：1件  
(臨床研究で実施)
- ⑦腹腔鏡下单純子宮全摘術：3件  
(臨床研究で実施)



### 前立腺癌小線源治療

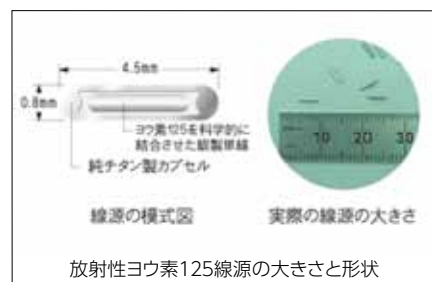
前立腺癌の密封小線源療法において、本学が国内トップレベルの小線源治療技術、豊富な治療経験と優秀な治療成績を有することから、本治療の啓蒙、普及、研究を目的として、前立腺がん小線源治療に特化した前立腺癌小線源治療学講座を設置しました。

平成26年度実績 135件(平成25年度 45件)

### 密封小線源放射療法(ブラキセラピー)とは？

非常に弱い放射線を出す小さなカプセル(4.5mm程度)を筒状の針を用いて前立腺内に挿入(50~100個程度留置)し、癌病巣へ放射線を照射する方法です。

放射線量は徐々に弱まり1年後にはほぼゼロになります。体の外に出る放射線は非常に弱いもので、治療後も普段どおり人と接することができます。



## 先進医療の推進

平成26年度は新たに1件の先進医療が承認され、計6件の先進医療を実施しています。

### 新たに承認された先進医療

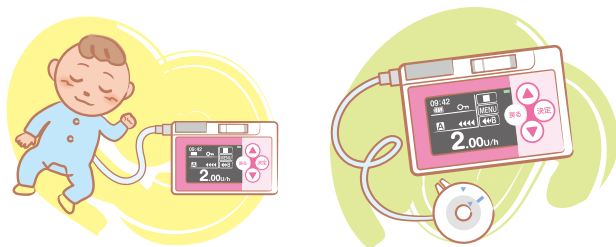
#### オクトレオチド皮下注射療法

##### 概要

新生児持続性低血糖症の最も多い原因のひとつである先天性高インスリン血症において、持続性低血糖症に対する薬物療法の第一選択である内服薬のジアゾキサイドが効かない場合に、オクトレオチド薬を皮下注射で投与し、低血糖症状態の改善を図るものです。初期治療は、入院して行い、症状が改善すれば外来で治療を継続していきます。

##### 対象患者

先天性高インスリン血症(生後二週以上十二月未満であって、ジアゾキサイドの経口投与では、その治療に係る効果が認められないものに限る。)





## 救急医療・災害医療体制の充実

### ヘリポートの稼働

ヘリポートの完成に伴い、ドクターヘリや防災ヘリによる救急搬送受入や搬出を行っており、地域における広域救急医療体制の充実に貢献しています。

#### ● ドクターヘリ搬送による緊急救命手術の成功例

長浜市で発症した急性肺塞栓症の患者さんに緊急救命外科手術を施術し救命に成功しました。この致命的な重症事例に対応できたのは、初期病院での適切な診断・対応、ドクターヘリによる迅速な搬送、本学の受け入れ体制整備によるものです。



テープカットを行う関係者



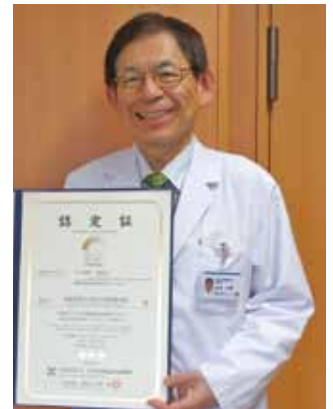
ドクターヘリ搬送訓練の様子

## 診療の質向上を図る取り組み

### 病院機能評価の更新認定を取得

平成26年1月に公益財団法人日本医療機能評価機構による書面・訪問審査を受けました。

その結果、機構の定める認定基準を達成していると認められ、平成26年5月2日付けで認定書が公布され、平成16年の初回認定、平成21年の更新認定に続き3回目の認定となりました。



認定書を手にする松木病院長

### 「経営net」を開設しました

病院経営に関する院内Webサイト「経営net」を開設し、診療コストの意識向上、効率的な病院経営を目指し、収入・支出に関する各種情報を構成員に広く周知し、情報共有を図っています。



滋賀医科大学附属病院  
ホームページは  
以下のURLからご覧ください。

<http://www.shiga-med.ac.jp/hospital/>

## インドネシア国立脳センター病院と 学術交流協定を締結

● 平成26年12月31日(水)

インドネシア国立脳センター病院は、インドネシア初の脳神経外科病院として、平成26年に開院しました。同センターとはかねてより、本学の脳神経外科野崎教授による技術指導等の交流が行われてきました。これらの交流を通じて、本学と同センターの交流協定を締結することとなりました。



## バングラデシュ国立心臓財団病院と 学術交流協定を締結

● 平成27年2月23日(月)

バングラデシュ国立心臓財団病院は、心臓血管疾患の症例と手術件数が非常に多いバングラデシュ有数の病院であり、これまでに本学のアジア疫学研究センター上島特任教授、三浦教授が先方の研究者を受け入れ、心臓血管外科浅井教授、呼吸循環器内科堀江教授らが先方の研究者と交流があったことが実を結び、本学と同病院の学術交流協定を締結することとなりました。

バングラデシュ国立心臓財団からAwal教授、Ahmed教授、Choudhury教授の3名が本学を訪問され調印式を執り行いました。



調印後の両関係者による記念撮影



バングラデシュ国立心臓財団病院や研究所の紹介を兼ねたプレゼンテーションの様子

## マレーシア国民大学との交流

ホー・シウ・エン医学部看護学科長をお招きしました

本学では、看護学科4年生を対象にマレーシア国民大学病院や近隣地域での海外研修を計画しています。研修の企画に先立ち本学及び病院を見学いただき、また、マレーシア国民大学における看護と看護教育についてのご講演をいただき、本学看護学科の学生及び教員、医学部附属病院看護部からも多数の参加があり、有意義な交流が図られました。



意見交換の様子



本学関係者との記念撮影



講演の様子



### 本学看護学科教員がマレーシア国民大学を訪問

2月12日～15日には、看護学科学生の海外研修プログラムの検討と病院見学等を目的に、川畑摩紀枝看護学科教授等4名がマレーシア国民大学(UKM)を訪問しました。川畑教授が本学看護学科と日本の看護制度について、高見副看護部長が附属病院の医療と看護について、UKM看護学科教員に紹介しました。UKMの看護学科と附属病院の見学を行い、交流をはかりました。2015年8月には看護学生3名がUKMで研修を行う予定です。

### 滋賀医科大学の訪問メンバー

#### 看護学科教員

川畑摩紀枝 教授、白坂真紀 学内講師

#### 附属病院看護部

林周子 副看護部長、高見知世子 副看護部長



本学関係者によるプレゼンテーションと意見交換の様子



記念撮影



見学の様子

### 馬場忠雄前学長がマレーシア国民大学より名誉医学博士号を授与されました

これは両大学の学術交流の開始と発展への功績により、授与されたもので、名誉博士号授与者3名のうち、唯一の外国人受賞者として名誉を受けられました。



授与式の様子(馬場前学長(左))



屋外に設置されたパネルでの授与者の紹介

教育

研究

診療

国際交流

社会貢献／財務状況

機能強化に向けた取り組み／業務運営・改善

## 救急事故現場への職員派遣に関する協定を大津市と締結

救急事故等の現場へ本学救急・集中治療部を中心とした医師・看護師及び事務連絡員による医療チームを派遣し、傷病者の迅速な救命を図ることを目的に、救急事故現場への職員派遣に関する協定を締結しました。



松末病院長(左)と丸山大津市消防局長(右)



両関係者による記念撮影

## 滋賀県警察との連絡協力に関する基本的協定を締結

滋賀県警で取扱う少年の問題行動等に関する情報の一部を本学と共有し、本学が医学的見地から分析・助言等を行ない、少年非行を含む特異的行動の原因究明や対策に寄与することにより、少年の健全育成及び非行少年の立ち直り支援に資することを目的に、滋賀県警と連携協力に関する基本的協定を締結しました。



合同記者会見 若林生活安全部長(左)と山田教授(右)



協定締結式 笠間滋賀県警察本部長(左)と塩田学長(右)

## 在宅看護職育成事業

本事業は、医療介護総合確保推進法に基づく滋賀県の計画の一環として行われる在宅医療・看護に関する人材育成を目的としたモデル事業を本学が実施するもので、本学看護学科の学生を対象に、在宅看護力の向上を目指した教育プログラムを創設・実施し、県の在宅医療・訪問看護に関わる人材の確保・養成に貢献するものです。

なお、本事業は看護学科及び医学部附属病院看護臨床教育センターとの協働で行います。



記者発表の様子



記者の個別質問に対応する様子

## 小・中・高等学校に対する教育サービス

県内を主とした小・中・高等学校からの依頼を受け、出前授業を行っています。医学・看護学を身近に感じてもらうように、医学や看護学につながる基本的な学問についての講義や実習を行っています。

また、膳所高校、虎姫高校、立命館守山高校との間で協定を締結し、本学での講義や実習などの高大連携事業を行っているほか、県内高校との間で進路別の高大連携事業や、滋賀県教育委員会からの依頼を受けて、コアSSH事業「滋賀サイエンスプロジェクト」を実施しています。

本学での高大連携事業の特徴としては、「先輩からの一言」というコーナーを設け、各高校を卒業した本学学生に依頼し、自身の受験対策と学生生活について話してもらっています。

平成25年6月にオープンした「メディカルミュージアム」では、人体模型、骨格標本、ヒト病理標本、バーチャルスライドシステムを配置しており、各校来訪の際にはミュージアムの見学も行っています。



病院内の見学



メディカルミュージアムの見学



医学科による顕微鏡を使った授業



看護学科での授業



## 平成26年度の概況

平成26年度の決算報告書は、附属病院収入や補助金等収入の増に伴い、489百万円の黒字となりました。しかし、発生主義に基づく損益計算書においては△484百万円の損益赤字となっています。これは、減価償却費と借入金元金返済額との差等、現行の会計制度上生じるものがあるためです。

## 貸借対照表について

資産の部は、建物(スキルズラボ棟)や医療機器(高精度放射線治療システム)等への投資を上回る減価償却費があったことや未収金の減により、前年度比2,491百万円減の43,982百万円となりました。また、負債の部も、長期借入金およびリース債務の返済等により、前年度比1,937百万円減の25,988百万円となりました。

(単位: 百万円)

資産の部			
	①平成25年度	②平成26年度	増減②—①
I 固定資産	35,106	33,466	△ 1,639
1.有形固定資産	35,048	33,402	△ 1,646
土地	10,163	10,163	0
建物及び構築物	18,390	17,593	△ 797
その他の有形固定資産	6,496	5,647	△ 849
2.無形固定資産	57	64	6
II 流動資産	11,367	10,516	△ 852
現金及び預金	5,678	5,587	△ 91
未収附属病院収入	4,300	4,101	△ 199
その他の流動資産	1,390	828	△ 562
資産合計	46,473	43,982	△ 2,491

負債の部			
	①平成25年度	②平成26年度	増減②—①
I 固定負債	19,444	18,570	△ 874
長期借入金	14,976	14,236	△ 741
長期リース債務	195	158	△ 37
その他の固定負債	4,273	4,177	△ 97
II 流動負債	8,481	7,418	△ 1,063
寄附金債務	1,272	1,333	61
一年以内返済長期借入金	1,211	1,241	29
未払金	4,134	3,638	△ 496
リース債務	595	156	△ 439
その他の流動負債	1,269	1,050	△ 219
負債の合計	27,925	25,988	△ 1,937

純資産の部			
	①平成25年度	②平成26年度	増減②—①
I 資本金	14,100	14,100	0
II 資本剰余金	3,923	3,853	△ 71
III 利益剰余金	525	41	△ 484
前中期目標期間繰越積立金	358	358	0
積立金	317	167	△ 150
当期末処分利益(損失)	△ 150	△ 484	△ 333
純資産合計	18,548	17,994	△ 554
負債・純資産 合計	46,473	43,982	△ 2,491

## 損益計算書について

経常収益は、寄附講座(総合内科学講座・総合外科学講座)の廃止に伴う寄附金収益の減等により、前年度比183百万円減の27,911百万円となりました。また、経常費用は、附属病院収入の増に伴う診療経費の増と、中長期的な人員計画に基づく増員等に伴う人件費の増等により、前年度比109百万円増の28,397百万円となりました。その結果、平成26年度は△484百万円の当期総損失となりました。

(単位: 百万円)

費 用			
	①平成25年度	②平成26年度	増減②—①
業務費	24,446	24,835	388
教育経費	477	444	△ 33
研究経費	822	763	△ 59
診療経費	10,197	10,557	360
教育研究支援経費	135	132	△ 3
受託研究事業費	595	534	△ 62
人件費	12,220	12,405	185
一般管理費	573	478	△ 95
財務費用	280	251	△ 29
減価償却費	2,988	2,832	△ 156
合 計	28,287	28,397	109

収 益			
	①平成25年度	②平成26年度	増減②—①
運営費交付金収益	5,224	5,464	240
学生納付金収益	607	654	47
附属病院収益	19,508	19,669	160
受託研究等収益	773	660	△ 113
寄附金収益	687	428	△ 259
施設費収益	132	26	△ 106
補助金等収益	299	255	△ 44
その他の収益	863	755	△ 108
合 計	28,095	27,911	△ 183

	①平成25年度	②平成26年度	増減②—①
経常利益	△ 193	△ 485	△ 293
臨時損益	△ 5	2	7
目的積立金取崩額	47	—	△ 47
当期総利益(損失)	△ 150	△ 484	△ 333

## 決算報告書について

収入は、施設整備費補助金収入や寄附金収入の減により、前年度比13百万円減の29,326百万円となりました。また、支出も、施設整備費や寄附金事業費等の減により、前年度比681百万円減の28,837百万円となりました。その結果、平成26年度は489百万円の黒字となりました。

(単位: 百万円)

収 入			
	①平成25年度	②平成26年度	増減②—①
運営費交付金	5,609	5,707	98
施設整備費補助金	1,288	309	△ 979
補助金等収入	354	479	125
自己収入	20,347	20,793	446
授業料、入学科及び検定料収入	625	634	10
附属病院収入	19,374	19,801	427
雑収入	348	358	10
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	1,372	1,163	△ 209
長期借入金収入	—	500	500
その他の収入	369	375	6
合 計	29,339	29,326	△ 13

支 出			
	①平成25年度	②平成26年度	増減②—①
業務費	24,899	24,980	81
教育研究経費	5,084	4,593	△ 492
診療経費	19,815	20,387	573
施設整備費	1,320	841	△ 479
補助金等	333	469	136
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	1,524	1,086	△ 437
長期借入金償還金	1,442	1,461	18
合 計	29,518	28,837	△ 681

収入—支出	△ 179	489	667
-------	-------	-----	-----

※百万円未満を四捨五入して表示しているため、合計額と一致しないことがあります。

## 教育研究組織の再編成

地域医療支援及び滋賀県下の医療実態を見据えた医師の養成と確保に引き続き貢献するため、総合内科学講座及び総合外科学講座を寄附講座の設置期限の満了に伴い、本学臨床医学講座の部門として組織替えを行いました。

MR医学研究センターを分子神経科学研究センターに融合させたMR医学研究分野としてスタートさせ、神経難病研究推進機構・分子神経科学研究センターとして、神経難病に関する分子イメージングプロジェクトを推進しています。

## 学長のガバナンス機能強化

学長のガバナンス機能強化を図るため、学校教育法改正に伴う学内規程の見直しを行い、規程改正(平成27年4月1日施行)を行うとともに、事務部門の業務内容と人員配置を見直し、IR\*機能を備えた事務組織に改革し、学長サポート体制を強化することの検討を開始しました。

※IR(institutional research)とは…大学の中にある様々な情報を活用し、教育、研究等の大学の業務の改善や意思決定の支援情報のデザイン、収集、分析、評価、活用、提供などの中核を担うこと。

学長のリーダーシップの下、研究活動における不正行為を防止する体制整備・強化を図るため、以下の取り組みにより臨床研究支援体制を強化しました。

- 独立行政法人医薬品医療機器総合機構スペシャリスト(臨床医学担当)の経歴を有する者を教授候補者に決定し、平成27年4月1日に着任しました。
- 利益相反マネジメント体制強化として、利益相反自己申告書の提出について従前からの年1回に加え、個別に臨床研究・治験を申請する際に、研究課題ごとに求めることとしました。
- コンプライアンス教育の一環として、臨床研究倫理に関わる研究者の認定制度[研修受講(年2回以上)による認定の義務化]を構築し、平成26年10月より実施しました。また、研究者、医学生、倫理委員会委員、研究補助者を対象とした研究倫理研修用コンテンツの制作、臨床研究啓発を目的としたコンテンツの導入を行いました。
- 平成27年度稼働に向けて、倫理審査委員会電子申請システム、ヒトゲノム研究における個人情報管理者の連結可能匿名化作業補助システム、臨床研究支援クラウドの導入を行いました。

## 人事・給与システムの弾力化

優秀な研究者を確保し、大学の活性化につなげることを目的として、平成27年3月から常勤教員に対する年俸制の導入を決定し、適用を開始しました。

平成26年4月より看護職員を対象として、退職手当を支給せずその相当額を年間の給与に組み入れ、概ね15年程度の勤続者までが年間給与額が現行より上回るようになるような新たな給与体系を設け、本人が採用時に選択できるシステムを開始しました。

## グローバル化に向けて

編入学生を除く他大学を卒業等した医学生を対象に、海外自主研修のための奨学金制度「医学系学生特別海外渡航助成」を本学卒業生からの寄附により新たに創設し、学生の海外研修を助成し、これまでで最多の46名が海外自主研修を行いました。

平成25年度に開所したアジア疫学研究センターでは、元米国バージニア大学教授のロバート・アボット氏を引き続き雇用し、教育・研究の国際化を推進するとともに、博士課程教育リーディングプログラム「アジア非感染性疾患(NCD)超克プロジェクト」では、海外からの客員教員の招聘講義を多数計画しており、平成26年度はバングラデシュからの客員教授の講義を行いました。





## 開学40周年記念講演会・記念式典・記念祝典を挙行

開学40周年を記念し、平成26年10月3日(金)に記念講演会・記念式典・記念祝典を挙行了しました。

記念講演会では、第62世三千院門主で叡山学院前院長・名誉教授の堀澤祖門氏が、「杵を破る」と題して講演されました。

記念式典では、塩田浩平学長が、「この40周年を機に、我々は来し方を顧み、現状を分析して、これを10年後の50周年に向けた新しいスタートにし、“地域に支えられ、世界に羽ばたく大学”として新たな飛躍を目指す」との決意を述べ、引き続き、下村博文 文部科学大臣(代読 文部科学省高等教育局国立大学法人支援課企画官の吉田光成氏)、滋賀県知事の三日月大造氏、滋賀大学長の佐和隆光氏、滋賀県医師会長の笠原吉孝氏からご祝辞をいただき、来賓紹介、祝電披露が行われました。

記念祝典では、塩田浩平学長の挨拶に続き、(公財)先端医療振興財団理事長の井村裕夫氏、滋賀県病院協会長の長尾昌壽氏、滋賀医科大学同窓会長の渡邊一良氏からご祝辞を頂戴し、前滋賀医科大学長の馬場忠雄氏発声による乾盃の後、元滋賀医科大学長の佐野晴洋氏、びわこ成蹊スポーツ大学長の嘉田由紀子氏、静岡県公立大学法人理事長の本庶佑氏からスピーチを頂き、本学開学40周年を盛大に祝い、松末吉隆病院長の謝辞で閉会しました。

これらの行事には、来賓、名誉教授、教職員及び学生ら約300名が参加し、滋賀医科大学のさらなる発展を祈念しました。



堀澤祖門氏による記念講演



記念式典の様子

## 井水浄化供給施設の運用開始

井水浄化供給施設が完成しました。本施設は、本学構内の深さ170メートルの井戸から汲み上げた水を浄化して、全学に上水道として供給するものです。この施設により通常時はもちろん、災害時の水の安定供給に大いに貢献できるものと期待されるとともに、水道料金の削減も見込まれます。



井戸水を試飲



井水浄化供給施設

## 「くるみんマーク」を取得

平成27年2月19日付けで滋賀労働局より労働者の仕事と子育ての両立を積極的に支援する「基準適合一般事業主」(子育てサポート企業)に認定され、次世代認定マーク「くるみん」を取得しました。

本学では、「次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画」(第2期目)を定め、育児・介護に係る休暇及び休業の就業規則を法定基準以上とする改定を行ったほか、学内保育所においては待機児童解消のための乳児定員枠の拡大、土曜日の毎週開所、病児保育室を開室するなどの充実を図りました。



認定証交付式

## 滋賀医科大学女性研究者賞の表彰

優秀な女性研究者の研究活動を表彰することを目的として平成25年度に創設した「女性研究者賞」の平成26年度表彰式を平成26年10月1日に行いました。代表論文の評価や研究の独創性、発展性など厳正な審査を経て、3名の教員に賞状と副賞を授与しました。

### 最優秀賞

病理学講座 助教 仲山 美沙子

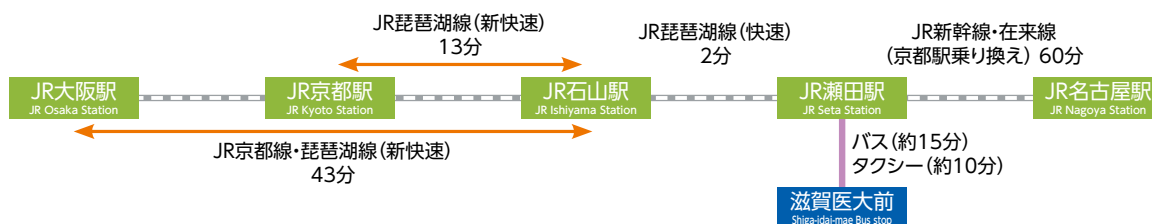
### 優秀賞

女性診療科 助教 竹林 明枝

社会医学講座 特任助教 近藤 慶子



<http://www.shiga-med.ac.jp/>



名神高速道路を  
ご利用の場合

草津田上インターで高速道路を降り、料金所を出てすぐの信号を左折。  
約300m先の「医科大学北口」信号を越えてすぐの交差点を左折、突き当たりを右折し約400m。

ご意見等の  
連絡先

滋賀医科大学 企画調整室

T E L ● 077-548-2011  
E-mail ● [hqkikaku@belle.shiga-med.ac.jp](mailto:hqkikaku@belle.shiga-med.ac.jp)  
住 所 ● 〒520-2192 大津市瀬田月輪町

本学では、地域の皆様からのご意見等を今後の大学運営に活用させていただきたいと考えています。  
お気づきの点等がございましたら、企画調整室にご連絡くださいますよう、よろしくお願いいたします。